

集落排水管理に新機軸

複数個所で同時制御・監視

小松電機

制御機器製造の小松電機産業(本社島根県八雲村、社長小松昭夫氏)は公衆電話回線を使い、複数の個所で同時に管理・監視できる集落排水計画・制御・監視システムを開発した。農・漁村を中心に集落排水処理施設整備が急拡大する中で、少ない人数で効率よく排水管理できる一連のシステムの開発は初めて。小松電機は高速開閉自動シャッター生産で急成長している山陰でも有数の中堅企業だが、今回の環境製品を同社第一の主力商品に育てていく方針だ。

公衆電話回線を使用

新システム(商品名をくも水)は浄水場、排水池、中継ボンプ場、処理場に置く計測機器



や制御・計測盤とこれらを管理する役場、民間の管理業者の電算機やパソコン端末機、さらに緊急時に担当者に知らせるボケットベルなどで構成している。

排水処理場の状況をテレビモニターで常時監視できる新システム

一つの役場で最大十五カ所の処理施設と五十カ所の中継ポンプ場の監視が可能のほか、通信手段に公衆電話回線を使っているので、維持費が比較的安く済む。処理場の各施設の運転状況や計測値を役場

などにあるテレビモニターで常時監視でき、異常時の警報装置もついている。特に水処理の専門家不足の中で、役場、維持管理業者や、現場担当者が互いに効率よく全体のシステムを管理できるよう工夫したCAN(コンピュータ・アシスト・ネット)に同じ同社は特許を出願中。

価格は機種の大小により一ト二千万円から四千万円まで。当面十、来年度からは年間約百十以上の受注生産に踏み切る。

集落排水施設整備事業は農水省や水産庁だけでなく厚生省や建設省も各和事業計画を立て推進が始まったばかり。町村単位では施設ができて技術者不足で管理面の不安があることから、今回の開発となった。小松電機は七三年設立、従業員数七十五人、年商三十五億円。